

Duncan Uncas Middleton の救い

肴 倉 宏

Duncan Uncas Middleton's Salvation

Hiroshi Sakanakura

抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Duncan Uncas Middleton は、光と闇の象徴的な意味を理解している。彼は、また自分が悪に蝕まれていることを自覚している。彼は、腐敗墮落した世界の中でメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰を支えとしている。Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰を通して救いを得ているのである。

キーワード： ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、ダンカン・アンカス・ミドルトン、救い

(2001年 8月25日 受理)

Abstract

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Duncan Uncas Middleton understands the symbolic meaning of light and darkness. He also recognizes that he is possessed by evil. He believes in the death and resurrection of Messianic Uncas and Hard-Heart in the fallen world. Middleton attains salvation through his faith in Messianic Uncas and Hard-Heart.

Key words： James Fenimore Cooper, *The Prairie*, Duncan Uncas Middleton, salvation

(Received August 25, 2001)

批評家たちは、James Fenimore Cooper の *The Prairie* (1827) に登場する Duncan Uncas Middleton についてあまり論じていない。彼等は、Middleton が作品の中で重要な役割を果たしていると考えていないようだ。たとえば、Henry Nash Smith は、Natty Bumppo と関連させながら Middleton について次のように述べている。

In *The Prairie*...he [Cooper] had described the death of Leatherstocking, and had at that time meant to abandon the character forever. This decision seems to have been due in part to the technical difficulty...for in later years Cooper told his daughter he wished he had left out of *The Prairie* the genteel hero and heroine, Inez de Certavallos and Captain Middleton, retaining only characters who properly belonged to the locale. But if the upper-class hero and heroine were to be omitted, and Leatherstocking was to be promoted to the post of official hero, how was the plot to be managed? It is at this point that Cooper's reluctance [sic] to break with the conventions of the sentimental novel becomes most glaringly apparent. ⁽¹⁾

Smith によれば、Cooper は上流階層に属している Middleton や Inez を大草原を舞台とした作品から省きたかったのだという。それができなかったのは、Cooper が感傷小説のしきたりを捨て難かったからだと彼は説明する。Smith は、Middleton の社会的な位置については言及するけれど Middleton が重要な意味を与えられていると考えていないのである。

しかし、光と闇から構成されている舞台の中で *The Prairie* の Middleton を捉え直してみるとどうなるであろうか。光と闇から構成されている舞台の中で捉え直してみると、Middleton は象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味を持つてくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられているのである。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味を持っていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14-15) ⁽²⁾

Natty Bumppo は、小高い丘の上になつて燃えるように輝いている夕日を満身に浴びてい

る。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背後に自然現象を超えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15) に打たれ立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light... surrounds the trapper with a halo of light, and, in effect, almost sanctifies him.” と述べている。⁽³⁾ 冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385) と描かれているように姿勢をただし大きな声で “Here!” (385) と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第1章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組みを作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられているのである。

The Prairie の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第1章後半から第6章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Siouxs 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40) と描かれている Siouxs 族は、Natty Bumppo に “the miscreants!” (37) や “the thieves” (38) と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊している Siouxs 族を “A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37) と述べている。Siouxs 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味が与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Siouxs 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれて

いる。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたうえで、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を “he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.” (53) と描いている。残忍な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り広げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深いかかわりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表すものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

Duncan Uncas Middleton が、光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼は、物語の第10章から登場する。第10章は、秋の穏やかな日差しを浴びながら Natty Bumppo たちが、野牛の肉を食べている場面である。Middleton は、Ishmael Bush 一家に誘拐された新妻の Inez の行方を探し求めて Louisiana 地方から大草原地帯にやってきたのである。そして彼は、偶然に Natty Bumppo たちが野牛の肉を食べている所に来るのである。Middleton は、秋の穏やかな陽光を受けながら登場している。Cooper は、こうして Middleton が象徴的な意味を与えられた光の側に属する人物であることを暗示しているのである。

光に対する Middleton の姿勢は、彼の名前を通して示されている。Duncan Uncas Middleton のミドルネーム Uncas は、*The Last of the Mohicans* に登場したインディアンに因んで付けられている。Middleton の祖父 Duncan Heyward は、7年戦争のとき Mohicans 族の Uncas や彼の父 Chingachigook に助けられたことがあるのだ。その経験から Duncan Heyward は、Uncas と Chingachigook を “models of heroism and constancy” (113) と考え彼等との友情を誇りに思い子孫に Uncas の名前を付けたのである。実際、Middleton は、祖父 Duncan Heyward が Uncas の名前を付けたことについて “He even boasted of the connexion; and...bestowed a name on his first-born, which is likely to be handed down, as an heir loom among the rest of his descendants.” (113) と言っている。Duncan Heyward の子孫の間では、Uncas の名前が代々受け継がれるべき家宝として大切にされているのである。Duncan Heyward の孫である Middleton は、自分のミドルネーム

Uncas に関して “It is the appellation of a native chief, that both my uncle and myself, bear with pride ; for it is the memorial of an important service done my family, by a warrior, in the old wars of the Provinces!” (111) と言っている。彼は、Uncas の名前を誇りに思っている。*The Last of the Mohicans* の Uncas は、若く勇敢な Mohicans 族のインディアンとして描かれているばかりではない。彼は、象徴的な意味を与えられた人物としても描かれている。Uncas は、メシヤとして描かれているのである。彼のメシヤ性は、死を通して示されている。彼の死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させる象徴的な意味を与えられている。Uncas の死は、人々の罪をあがなう贖罪死を象徴的に表わしている。⁽⁴⁾ Middleton は、象徴的な意味を与えられた Uncas の名前が付けられている。そのことは、Middleton が Uncas の死に象徴的な意味を読み取り Uncas をメシヤと信じる信仰に支えられていることを示している。Middleton の信仰は、祖父 Duncan Heyward の信仰と対比されている。Duncan Heyward は、Uncas の死を死に至るまで善意を示し続けた模範的なインディアンの美しい死と見ていた。彼は、合理主義的・博愛主義的信仰の持ち主なのである。⁽⁵⁾ しかし Uncas をメシヤと信じる Middleton は、祖父の合理主義的・博愛主義的信仰を超えて福音主義に立脚した信仰を持っているのである。Uncas の死に象徴的な意味を読む Middleton は、秋の穏やかな陽光の背後に象徴的な意味を読み取ることができるのである。Middleton は、光の中に神の臨在を感じ取っているのである。

光に対する Middleton の姿勢は、第10章の野牛の肉を食べる場面を通してさらに強調されている。Middleton は、Natty Bumppo や Paul Hover たちが肉を食べているところに偶然やってきた。蜂蜜採集業者である Paul は、Middleton が同業者でないと分かると気を良くして彼に “And, now, if your stomach has an empty corner, and you know how to relish a genuine dew drop when it falls into your very mouth, there lies the exact morsel to put into it. Try it, stranger.” (109) と言って肉を食べることを勧める。Middleton は、“I will ...gladly profit by your invitation ; for I have fasted since the rising of yesterday’s sun, and I know too well the merits of a bison’s hump, to reject the food.” (109) と招きに感謝している。彼は、勧められた肉を一目見ただけで肉の種類と部位を言い当てる。そのうえ、彼は、Natty Bumppo や Paul と違って “Buffaloe” (76) と通俗的な言い方をせず博物学者 Obed Battius の勧め “Bison” (77) という正式な名称を用いている。Middleton は、一目見ただけで対象の本質を直観的に把握できる鋭い洞察力と対象を正確に表現する能力を兼ね備えている。Paul は、Middleton の判断力に敬服して “Ah! you ar’ acquainted with the dish!” (109) と言う。鋭い洞察力と的確な表現能力を持つ Middleton は、肉を食べることに込められている象徴的な意味を理解できるのである。第9章から第10章にかけて描かれている肉を食べる場面は、キリスト教の聖餐式を象徴的に描いた場面である。野牛の肉を食べることは、野牛の皮の背後に隠れて死を克服した復活のメシヤ Hard-Heart のもたらす恵だけでなく Hard-Heart と “brothers” (277) と言われている Uncas の恵に預かることでもある。野牛の肉を食することは、愛する独り子を犠牲にしてまで人間を救おうとする神の愛を思い起こし死からでさえ生を造り出す神の創造力に感謝し終末の完成を先取りして味

わうことなのである。⁶⁾ 荒野で執り行われる聖餐式に加わり野牛の肉を食べることは、Natty Bumppo が “strong it is, and strong it makes him who eats it!” (97) と言うように肉体的にも霊的にも強められることなのである。“the merits of a bison’s hump” (109) に込められた象徴的な意味を洞察できる Middleton は、霊的に強められる必要性を痛切に感じているのである。彼は、杳として行方のしれない Inez を探し求めて絶望的になっていた。ちょうどそのようなときに彼は、Natty Bumppo の司式する聖餐式に参加するのである。これを契機に Middleton は、Inez に関する手がかりをえ希望を持つようになるのである。彼は、肉を食することを通して霊的に強められているのである。肉を食することの象徴的な意味を理解できる Middleton は、光の象徴性を認識できるのである。

光の象徴性を理解できる Middleton は、闇に与えられている象徴的な意味も理解できる。物語の第25章に注目して見る。この章で Middleton と Paul は、Mahtoree の率いる Siouxes 族に捕えられ野牛の革紐で縛られている。この状況での Middleton と Paul は、それぞれ違った反応を示している。革紐が徐々に体に食い込んで苦痛を与える事態に対して Paul は、Middleton に “Captain...do you really find that accursed strap of untanned leather cutting into your shoulder, or is it only the tickling in my own arm, that I feel?” (275) とふざけ半分に言うのである。彼は、冗談を言ってインディアンの加える肉体的拷問に耐えようとしているのである。自分が受けている苦痛を肉体的なものとして止めている Paul は、Mahtoree を Siouxes 族の族長と理解するもの彼を悪の化身とは理解できないのである。Paul に話しかけられた Middleton は、Paul と同じ状況において “When the spirit suffers so deeply, the body is insensible to pain” (275) と答え Paul と異なる受け止め方をしている。彼は、精神的・霊的な苦悩が大きいとき人間は肉体的な苦痛を感じないものだというのである。彼は、Mahtoree に捕えられていることを肉体的苦痛よりもさらに恐ろしい悪に人間性を蝕まれることと受け止めている。精神的・霊的な苦悩を強く感じている Middleton は、Mahtoree を悪の化身と理解している。Mahtoree の象徴性を認識する Middleton は、作品の舞台を包む闇がその中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁を許す破壊的なエネルギーを内包した恐ろしいものであることを理解できるのである。

闇の象徴性を理解している Middleton は、悪に蝕まれていることを自覚している。Cooper は、第10章で登場した Middleton を “He wore a forage cap, of fine blue cloth, from which depended a soiled tassel in gold, and which was nearly buried, in a mass of exuberant, curling, jet-black hair.” (108) と描写している。彼は、黒髪をしている。彼の黒髪は、生まれながらの特徴を示しているだけでなく象徴的な意味をも与えられている。彼の黒髪は、悪の化身 Mahtoree が潜んでいる恐ろしい闇と同質の黒さを持って生まれたことを表わしている。彼は、悪に蝕まれた人間であることを自覚しているのである。この自覚を持つ Middleton は、Inez の黒髪に与えられている象徴性を読み取ることができるのである。Cooper は、Inez を “Her dress was of a dark and glossy silk, and fluttered like gossamer, around her form. Long, flowing, and curling tresses of hair, still blacker and more shining than her robe, fell at times about her shoulders, completely enveloping the

whole of her delicate bust in their ringlets, or at others, streamed long and waving in the wind.”(91)と描いている。スペイン系の血を引く “a Louisianian Lady”(156)である Inez は、黒髪をしている。彼女の黒髪は、人種的・民族的特徴を表わしているだけでなく Middleton の場合と同様に象徴的な意味を与えられている。Inez の黒髪は、Middleton と同様に悪に人間性を蝕まれていることを示している。⁽⁷⁾ 悪に蝕まれていることを自覚している Middleton は、Inez の心の奥深いところに秘められている悪に蝕まれているという哀しさを察知し彼女の魂の苦悩を共感することができるのである。

悪に蝕まれていることを自覚している Middleton は、Ishmael Bush 一家に Inez が囚われていることの象徴的な意味を理解している。Ishmael Bush 一家は、“the sheriff's deputy”(58)を射殺したうえ Inez を営利誘拐している。Ishmael と長男 Asa は、Ellen を “a strag-gling deer or a hungry wolf!”(90)として扱ったことで喧嘩する。さらに Asa と叔父の Abiram White が Inez のことで対立し、その結果、叔父の Abiram が甥の Asa を射殺する。Ishmael Bush 一家は、倫理的腐敗と破壊的なエネルギーを秘めた殺伐たる一家である。Ishmael Bush 一家を陰から操っているのが悪の化身 Mahtoree である。⁽⁸⁾ Mahtoree に操られている Ishmael Bush 一家は、悪に蝕まれ腐敗墮落した人間の古い世界を象徴的に表わしているのである。⁽⁹⁾ Inez が Ishmael Bush 一家に囚われていることは、彼女が墮落した世界に囚われていることを意味している。悪に蝕まれていることを自覚している Middleton は、Ishmael Bush 一家と Inez の係わりに人間と世界の墮落性が不可分に結び付いていることを見抜いているのである。彼は、Inez が Ishmael Bush 一家の構築した砦のテントに囚われていることを知ると砦の中に入っていかうとする。実際、彼は、Ishmael Bush 一家の砦に行ったとき Ellen に次のようにいう。

You are a witness, yourself, that I have foreborn to utter a single call, while I am certain it could reach those ears, it would gladden so much. Permit me then to ascend the rock, singly; I promise a perfect indemnity to your kinsman against any injury his effects may sustain. (152)

Middleton は、自分一人だけ砦の中に行き Inez と話をしたいと申し出る。彼のこの提案は、Ishmael Bush 一家に具現された墮落した世界の中で悪に蝕まれた Inez の哀しみを共感し、彼女を慰め、労り、励まし、互いに支え合いながら生きていかうとする彼の姿勢を示している。Middleton は、Inez と同様に墮落した世界に生きる不完全な人間の一人であることを自覚し互いに精神的・霊的な苦悩を分かち合おうとするのである。Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰を支えとして墮落した世界で苦悩に耐えようとしているのである。

Middleton は、彼の信仰を通して救いを得ているのである。物語の第23章の大草原の火事の場面に注目して見る。悪の化身 Mahtoree は、Middleton たちが寝ている間に大草原に火を放ち彼等を焼殺そうとする。しかも Mahtoree は、火の周辺に Siouxes 族を配置して火を潜り抜けてきたものを殺そうとしている。この絶望的な状況の中で Hard-Heart は、野牛の皮の下に隠れ死を免れるのである。メシヤ Hard-Heart の復活は、人間とその世界

に君臨してきた悪と死の支配に終焉をもたらすことなのである。Middleton は、Hard-Heart をメシヤとして受容していた。彼は、Hard-Heart に対する信仰によって悪と死の支配から解放されているのである。Middleton は、いまだくすぶり続けている大草原を通っているとき火事の犠牲になった “the mutilated carcass of a horse” (253) を見る。彼は、それを見ながら “And this might have been our fate!...had the flames come upon us, in our sleep!” (253) と言う。彼は、不信仰の眠りに陥らず信仰に目覚めていたことが奇蹟的に助かった原因であるという。メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰によって Middleton は、悪の呪縛から人間性を解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復しているのである。

Middleton の救いは、第31章の裁判の場面を通してさらに強調されている。この場面で重要なのは、“arbitrary judge” (342) と描かれた Ishmael Bush ではなく Hard-Heart である。Hard-Heart は、復活のメシヤであるだけでなく最後の審判のときの審判者としても描かれている。Hard-Heart は、Ishmael Bush 一家に象徴的に描かれた墮落した世界に生きているすべての人の宗教的・倫理的行いを裁こうとしている。第31章の裁判の場面は、キリスト教の最後の審判を象徴的に描いているのである。⁽¹⁰⁾ Middleton は、審判者としての Hard-Heart の前にたたさされているのである。Middleton は、悪に触まれていることを自覚していた。さらに彼は、Ishmael Bush 一家に具現された墮落した世界の中で Inez と精神的・霊的な苦悩を分かち合おうとしていた。このような Middleton は、光の子として扱われる恵を与えられているのである。彼は、第10章で象徴的な意味を与えられた光を満身に受けて登場している。彼は、最終章の第34章でも栄光に輝く夕日を浴びている。彼は、象徴的な意味を与えられた光あるうち光の中を歩む人物なのである。Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰を通して救いを得ているのである。

Middleton が救いを得た原因をさらに究明するためには、Middleton と Natty Bumppo の関係に注目してみる必要がある。Natty Bumppo は、*The Prairie* では毘師として描かれている。毘師は、高齢になり体力の衰えた Natty Bumppo の生計を支える職業であるばかりでなく、象徴的な意味も与えられている。Natty Bumppo は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者であるばかりでなく聖餐式の執行者としても描かれている。⁽¹¹⁾ 彼は、Chingachgook と Uncas の係わりに描かれた愛する独り子を犠牲にしてまで人間を悪より救い出だそうとする神の愛、Hard-Heart の復活にみられる死からでさえ生を造り出す神の豊かな創造力そして終末の接近について語り、荒野であった人々や老犬の Hector を聖餐式に招くのである。⁽¹²⁾ 彼は、神や人間そして自然との交わりを深める宗教的な人間なのである。このような Natty Bumppo に対する Middleton の態度は、Middleton の宗教的な真理に対する姿勢を示すことになるのである。

Middleton は、第10章で Natty Bumppo に初めて会うのである。彼は、Inez を探し求めて偶然 Natty Bumppo たちがいるところにやってきた。Obed が任命書を見ながら Middleton の名前を Duncan Uncas Middleton と読み上げるのを聞くと、Natty Bumppo は “How is the name! did you call him Uncas? Uncas! was it, Uncas?” (111) と言って Middleton に興味を示す。そして彼は、“Tell me, lad, by what name is your father known?”

(112)とか “And *his* father?” (112)と問いかけ Middleton の父や祖父のことを聞くのである。Middleton の話を聞いているうちに Natty Bumppo は、Middleton が *The Last of the Mohicans* に登場した Duncan Heyward の孫であると分かるのだ。彼は、Duncan Heyward が Uncas や彼の父 Chingachgook そして自分のことを Middleton にどんなふう話していたかを知りたがるのである。Natty Bumppo は、Uncas や Chingachgook が “models of heroism and constancy.” (113)として語られるが、Duncan Heyward と Munro 大佐の娘たちを助けるのに一役買った自分のことが話しの中にでてこないのもどかしく思う。そこで彼は、Middleton に “Did he tell you of them *all*? were they *all* red-skins, but himself and the daughters of Munro?” (114)と尋ねる。Middleton は、“No. There was a white man, associated with the Delawares. A scout of English Army, but a native of the Provinces.” (114)と Natty Bumppo のことを本人を前にしていることは知らずに話す。Natty Bumppo は、インディアンとつきあっている男はやくざな人間とみなされているに違いないと思込み “A drunken, worthless, vagabond, like most of his colour who harbor with savages, I warrant you!” (114)と自分を卑下するという。Natty Bumppo の言葉を聞いた Middleton は、Natty Bumppo 本人に話しているとは知らずに次のように忠告する。

Old man, your gray hairs, should caution you against slander. The man, I speak of, was of great simplicity of mind, but of sterling worth. Unlike most of those who live a border life, he united the better, instead of the worst qualities of the two people. He was a man, endowed with the choicest and perhaps rarest gift of nature, that of distinguishing, good from evil, his virtues were those of simplicity, because such were the fruits of his habits, as were, indeed, his very prejudices. In courage, he was the equal of his red associates, in warlike skill, being better instructed, their superior. In short, he was a noble shoot from the stock of human nature, which never could attain its proper elevation and importance, for no other reason, than because it grew in the forest: such, old hunter, were the very words of my grandfather, when speaking of the man, you imagine so worthless.” (114)

Middleton は、祖父 Duncan Heyward が Natty Bumppo を倫理的善・悪を識別できる類まれな洞察力を与えられている人物として高く評価し尊敬していたと述べるのである。続けて彼は、Duncan Heyward が Natty Bumppo を尊敬していた証拠として “there are already three, among us, who have also names derived from that scout.” (115)と言う。Middleton は、親戚の中に Natty Bumppo の名前をつけたものが三人いるというのである。Duncan Heyward の子孫たちは、Uncas や Chingachgook だけでなく Natty Bumppo を尊敬しているのである。Middleton 一族の間で高く評価されていることを知った Natty Bumppo は、自分が Duncan Heyward を助けた本人であると告白する。死んだものと長い間思っていた Natty Bumppo を目の前にして Middleton は、直ちに “I do not hesitate to believe, I only marvel that it should be so.” (116)とあって Natty Bumppo のいうことを信じるのである。彼は、Natty Bumppo を年老いた畏師として見るのではなく倫理的な善・悪を識別できる

人として尊敬し彼の言うことを信じるのである。Middleton は、Natty Bumppo に与えられている象徴性を理解できるのである。Middleton は、Natty Bumppo をメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活について語る伝道者にして聖餐式の執行者として認識する。Middleton は、Natty Bumppo の語る宗教的真理を共有しているのである。

Natty Bumppo の象徴性を理解する Middleton は、Natty Bumppo の愛犬 Hector に対して暖かい配慮を示している。第33章の Natty Bumppo と Middleton の対話に耳を傾けてみる。物語の第33章は、Natty Bumppo と Middleton の別れの場面である。Middleton は、Ishmael Bush 一家に誘拐され囚われていた妻の Inez を解放し連れてきた小犬とともに Louisiana に戻ろうとする。Natty Bumppo は、最晩年を血を分けた小犬と楽しんできた Hector がひとりで死を迎えなければならない孤独を察知して Middleton にお願いをする。Natty Bumppo は、Middleton に次のように頼む。

Here is Hector, a good and faithful pup, that has long outlived the time of a dog, and like his master he looks more to comfort now than to any deeds in running. But the creatur' has his feelings as well as a christian. He has consorted latterly with his kinsman, there, in such a sort, as to find great pleasure in his company, and, I will acknowledge that it touches my feeling a little to part the pair so soon. If you will set a value on your hound, I will endeavor to send it to you in the spring, more especially should them same traps come safe to hand, or if you dislike parting with the animals, altogether, I will just ask you for his loan through the winter. I think I can see my pup will not last beyond that time, for I have judgment in these matters, since many is the friend, both hound and red-skin, that I have seen depart in my day, though the Lord has not yet seen fit to order his angels to sound forth my name. (373-374)

Natty Bumppo は、死を目前にした Hector の最晩年が楽しいものであればそれだけ一層小犬との別れが辛かろうと感じ取るのだ。彼は、人間と同じ言葉を話さないとしても喜怒哀楽を感じ取る能力を持つ Hector が耐えなければならない孤独感を読み取り、孤独から来る苦痛を軽減し豊かに天寿を全できるように配慮するのである。Natty Bumppo の願を聞いた Middleton は、彼の Hector に寄せる思いやりの深さに感動して “take him, take him... Take all, or any thing!” (374) と言って小犬を渡す。Middleton の暖かい配慮によって Hector は、死ぬまで孤独を味わわずに過ごすのである。Hector は、Natty Bumppo の飼い犬であるだけでなく象徴的な意味も与えられている。Hector は、人間を除いた神の被造物全体を象徴的に示す代表なのである。⁽¹³⁾ 象徴性を与えられている Hector に対する Middleton の姿勢は、動物や植物を含む自然に対する彼の姿勢を表わしている。Hector に暖かい配慮を示す Middleton は、人間も自然も神の被造物として平等の存在であることを自覚しているのである。彼は、神の前での平等に基づいた正義を人間に限定するのではなく自然界にまで拡大しているのである。さらに彼は、人間が自然に対して暖かい配慮を示す責任を負っている存在であることも自覚している。Middleton は、神の被造物として人間と自然の共生を願っているのである。

Middleton は、自然との交わりだけでなく人との交わりをも大切にするのである。彼は、Natty Bumppo たちのいるところに来たとき“I come in amity...I come as a friend; and am one, whose pursuits and wishes will not at all interfere with your own.”(108)と行って相手に敵意を起ささせないように配慮している。彼は、すぐに気さくな Paul と仲よくなる。Paul は、一目見て“a bison's hump”(109)と言い当てる Middleton に敬意を表わしている。実際、Paul は“Ah! you are acquainted with the dish! Well, therein, you have the advantage of me”(109)と言う。Paul は、鋭い洞察力を持つ Middleton を尊敬するのである。博物学者 Obed も通俗的な言い方しないで“Bison”(77)と正式な言葉を使う Middleton に敬意を払う。Middleton は、学位もなければ大学教育も受けたことも無いのだが教養ある人として Obed からみなされている。Middleton は、Natty Bumppo を教養の無い老罫師だからといって軽蔑しない。むしろ彼は、Natty Bumppo を倫理的洞察力のある人として尊敬し旅の途中何度も彼のアドバイスに謙虚に耳を傾ける。そのうえ、Middleton は、高齢で身寄りの無い Natty Bumppo の世話をしようとする。実際、彼は、Natty Bumppo に“I had not thought of parting...On the contrary, I had hoped and believed that you would have accompanied us below, where, I give you a sacred pledge, nothing shall be wanting to make your days comfortable.”(370)と言う。Middleton は、一族の恩人の Natty Bumppo に晩年を気持ち良く過ごしてほしいと願っているのである。Middleton は、孤児の Ellen にも優しくする。Ellen が Inez に気を配ってくれたことを感謝して Middleton は、しばらくの間 Ellen の面倒を見ようとする。実際、彼は、“did you not say, Inez, that this excellent young woman was to accompany us, and to live with us, for the remainder of her life, or, at least, until she found some more agreeable residence for herself.”(173)と Inez に尋ねている。彼は、孤児の Ellen が自立できるまで援助しようとするのである。Middleton は、相手がどのような社会的階層や境遇にしようとも誰とでもわけ隔てなく暖かく交わろうとしているのである。

Middleton の人間に対する姿勢は、彼と Inez との結婚を通してさらに強調されている。彼が Inez と結婚したのは、“the former heroes and grandees of old and of New Spain”(157)を輩出した名門の家柄に引かれたからではない。彼が結婚したのは、“the charms of a Louisianian Lady”(156)と述べられた Inez の異国的な美しさに魅了されたからだけでもない。彼が Inez と結婚したのは、Inez が黒髪をしているからである。Inez の黒髪は、彼女が悪に人間性を蝕まれていることを示していた。カトリックの信者である Inez は、悪に蝕まれていることを謙虚に自覚し悪より救い出されることを熱心に祈る女性として描かれている。実際、彼女は、信仰ゆえに救いを得ているのである。⁽¹⁴⁾ Middleton も黒髪をしている。彼は、自分が悪に蝕まれ不完全な人間であることを自覚している。彼もやはりメシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰を通して救いを与えられている。Middleton と Inez は、信仰によって悪の呪縛から解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復しているのである。このような Middleton と Inez は、神に愛された存在として相手のありのままの姿を受け入れることができるのである。彼等は、Ishmael Bush 一家に具現された墮落した

人間の世界の中で悪に蝕まれている哀しみを互いに共感し慰め、労り、励まし、支え合いながら生きていこうと決意した。彼等は、互いに必要な存在と認めたから結婚したのである。Middleton と Inez は、墮落した世界の中で苦悩を分かち合う同労者なのである。

批評家たちは、Middleton と Inez の結婚について述べている。John P. McWilliams, Jr. は、二人の結婚を“a national mingling of culture”と述べている。Orm Overland は、“a symbol of social or political union”と言う。Robert Emmet Long は、“the reconciliation of the disparate demographic elements of the Union”と解釈している。Joel Porte も Geoffrey Rans も文化や宗教の融合を表わしているという。⁽¹⁵⁾ 批評家たちは、Middleton と Inez の結婚をアメリカの政治的・文化的・宗教的統一を描いたものと解釈している。しかし Middleton と Inez の結婚は、政治的・文化的・宗教的統合を可能にする人間の根本的な関係を描いていると解釈されるべきであろう。Middleton と Inez は、悪から解放され神に愛された存在なのである。彼等は、神に愛されているゆえに互いを愛すべき存在として認め合うことができるのである。Middleton と Inez に見られる愛は、分離された者の相互承認を引き起こし、そのようにして多様性の統一をもたらす。Middleton と Inez に見られる神に対する愛と人に対する愛が、共同体を再生・統合するために不可欠な一歩なのである。Cooper は、Middleton と Inez の結婚を通して共同体を再生・統合するために不可欠で根本的な人間関係を描いているのである。

Middleton と Inez の結婚は、Adam と Eve の関係を思い起こさせる。創世紀 2 章 21 節から 25 節までは、Adam と Eve の創造から結婚までのいきさつを次のように述べている。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。

「ついに、これこそ

わたしの骨の骨

わたしの肉の肉。

これこそ、女（イシャー）と呼ぼう

まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」

こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、

二人は一体となる。

人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。⁽¹⁶⁾

創世紀 2 章 21 節から 25 節までの Adam と Eve の創造から結婚までのいきさつの箇所について *The New Oxford Annotated Bible* は、重要な示唆を与える注をつけている。*The New Oxford Annotated Bible* は、次のように述べている。

21–23 : Creation from the man’s rib shows an affinity between man and woman such as is not possible between humans and animals. The affinity is expressed poetically in the jubilant cry of v. 23, with its word play on “man” (“ish”) and “woman” (“ishah”).

24–25 : Sex is not regarded as evil but as a God-given impulse that draws a man and a woman together so that *they become one flesh*. The two were unashamedly naked, a symbol of their guiltless relation to God and to one another. ⁽¹⁷⁾

The New Oxford Annotated Bible は、男と女の間を人間と動物の間には見られないほどの親密な関係であると述べている。さらに、男と女が裸であることは、神との関係においても男と女の間においても人間は、無垢で親密な関係を持っていることを象徴的に表わしていると述べている。しかし Adam と Eve は、神の戒めに背き楽園を追放されたのである。彼等は、神との無垢で親密な関係を喪失した。そのうえ、彼等は、誠実に心の中を語り合える親密な関係を失い、互いに秘密を持ち疎遠な関係になってしまったのである。Eden の園から追放され墮落した人間の世界を終のすみかとしなければならなかった Adam と Eve は、互いに不信感を抱き疑い深い関係になってしまった。Middleton と Inez は、Ishmael Bush 一家に具現された墮落した人間の世界に囚われていた。しかし Middleton と Inez は、メシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰に支えられている。彼等は、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰によって悪の呪縛から解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復しているのである。Middleton と Inez は、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰によって神との関係を回復し楽園追放以前の Adam と Eve の関係に見られた心の中を誠実に語り合える親密な関係を構築できているのである。悪に触まれていることを自覚している Middleton は、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰を通して Inez との親密で暖かい人間関係を作り上げているのである。

R. W. B. Lewis は、Cooper の作品に描かれた Adam のイメージについて論じている。Lewis は、特に *The Deerslayer* (1841) の Natty Bumppo を Adam のような人物として論じている。彼は、次のように言う。

But Cooper differed radically from either Conrad or Melville in his refusal to perceive any evil, overt or hidden, in the magnificent world of space, or in any of its creatures. His most memorable creatures come into moral being in the environmental influence of that world; they draw their breath in it; they reflect its firm and simple purity; they share its aloofness from time. Natty Bumppo is, of course, its representative *par excellence*, along with Chingachgook, the noble Mohican, especially in their youthful friendship as described in *The Deerslayer*; Canonchet, the Narragansett in *The Wept of Wish-ton-Wish*, belongs there too; and to some extent, Harvey Birch, the lonesome and heroic peddler who doubles as *The Spy*; and perhaps even Long Tom Coffin in *The Pilot*—Tom Coffin who has forgotten how to act in the land-world. ⁽¹⁸⁾

Lewis は、Cooper の描いた重要な人物たちが悪や時間と係わりを持たず汚れなき世界を映す無垢な存在であると述べている。そして彼は、Natty Bumppo を楽園追放以前の無垢な Adam を表わす典型とみているのである。しかし、Cooper は作品の枠組みとして救済史を用いていた。彼は、*The Last of the Mohicans* では天地創造からメシヤ Uncas の死に至るまでを描いていた。⁽¹⁹⁾ 彼は、*The Prairie* ではメシヤ Hard-Heart の復活から最後の審判までを描いている。⁽²⁰⁾ そのうえ Cooper は、*The Last of the Mohicans* では悪の化身 Magua を *The Prairie* では悪の化身 Mahtoree を描き人間とその世界は悪に触まれ墮落性を免れ得ないことを示していた。Cooper は、Lewis の指摘とはまったく反対に悪や時間を

描いているのである。Cooper の描いた人物たちは、楽園追放以前の Adam と比較されるべきではなく楽園追放後の Adam と比較されるべきである。Natty Bumppo にしても Middleton にしても楽園追放後の Adam と比較されるべきであろう。Middleton と Inez は、楽園追放後の Adam と Eve なのである。しかし彼等は、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰を通して楽園追放以前の Adam と Eve の親密な関係を回復しているのである。

Middleton と Inez の関係は、Ishmael Bush と Esther の関係と対比されている。Ishmael は、Natty Bumppo の語るメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活の話に耳を傾けるどころか伝道者にして聖餐式の執行者 Natty Bumppo に対して敵意すら抱いている。彼は、魂の再生を経験していないのである。⁽²¹⁾ 彼の妻 Esther は、Ishmael に比べると字も読めるし聖書も持っている。しかし彼女の持っている聖書は、“the fragment of a bible, which had been thumbed and smoke-dried till the print was nearly illegible” (357) と描写されている。彼女の持っている聖書は、罰則を定めた旧約聖書の一部でキリストの愛を教えている新約聖書を欠いていると思われる。このような聖書の断片を指針としている Esther は、Ishmael と同様に魂の再生を経験していないのである。メシヤに対する信仰を持たない Ishmael と Esther の夫婦関係は、冷えきっていて互いに相手を思いやる事が無い。実際、Esther は、働きもせずぶらぶらしている Ishmael に “D’ye think mouths can be fill’d, and hunger satisfied, by laziness and sleep!” (95) と文句を言う。そして彼女は、“Look at the bee, and at the beaver, my good man and learn to be a provider.” (96) と Ishmael に忠告する。さらに彼女は、Inez を隠しているテントを覗き込む Ishmael を見て “the man is in that tent ag’in! More than half his time is spent about that worthless, good-for-nothing—” (95) とやきもちをやく始末である。Ishmael は、文句をたらたらという Esther を “regarding his noisy companion with a look of habitual tolerance rather than of affection” (95) と描写されているように愛情からというよりもいつものことだというあきらめ顔で見ている。Esther が Obed の調合した薬のせいで舌が回らなくなったと言うと、Ishmael は “Is the medicine out?...it must be a rare dose that gives a heavy feel to the tongue of old Eester!” (129) とおしゃべりな Esther に素っ気なく皮肉を言っている。さらに Ishmael は、Esther の心配を気にもとめない。Esther は、狩りに出かけて戻ってこない長男 Asa のことを一晩心配し次の朝捜索に出かける。Ishmael は、Esther に一応従うが途中で “Follow me, and I will make a turn that shall give us at least the beef of a fallow cow, for our trouble.” (132) といって息子の捜索を打ち切り狩りをしようと提案する。彼は、Esther の子供を思う気持ちを全く理解しようとしないのである。Ishmael と Esther は、文句の言い合いとそれに対する応酬で終始しているのである。悪に蝕まれているという自覚も無くキリスト教信仰に敵意を抱いている Ishmael と Esther は、打ち解けて話し合う暖かい人間関係を形成できないのである。

Middleton と Inez の関係は、Paul Hover と Ellen Wade との関係とも対比されている。Paul と Ellen は、毎夜逢引するほど愛し合っている。しかし彼等は、闇を逢引するための物理的な隠れ蓑として利用するけれども闇に与えられている象徴的な意味を理解できないのである。Paul は、Natty Bumppo の “evil is nigh” (36) という忠告を無視している。闇の

象徴性を理解しない Paul と Ellen は、魂の救済に無関心なのである。⁽²²⁾ 霊的なことに無関心な Paul は、世俗的な成功が幸福をもたらすと考えている。実際、Paul は、Middleton に Ellen と結婚する夢をつい口をすべらして次のように言う。

I should be the happiest fellow, between Kentuck and the Rocky Mountains, if I had a snug cabin, near some old wood that was filled with hollow trees, just such a hump every day as that for dinner; a load of fresh straw for hives, and little El—” (109)

Paul は、蜂蜜採取業に励み経済的に自立し綺麗な家を建て Ellen の手料理を味わえれば最高に幸せだという。彼は、経済的な成功がもたらす家庭的な安定の中に自己充足的な喜びを見出ししているのである。経済的な成功に目を奪われている Paul は、Ellen と苦悩を分かち合う姿勢をもちえないのである。実際、Ellen は、Paul のせっかちで強引なところに少々不安を感じている。Ellen は、孤児の彼女を引き取り育ててくれた Ishmael Bush に恩義を感じ “go, and the blessing of God go with you!” (350) というまで Ishmael Bush 一家に仕えそれから Paul と結婚しようと考えている。このような Ellen の気持ちを考えもせず Paul は、事を強引に運ぼうとする。そのため Ellen は、Paul に “You are ever so hasty and so rash, Paul Hover, that I seldom know when I am safe with you.” (33) と文句を言う。Ellen は、自分の気持ちをくみ取ってくれない Paul に不満をもらしているのである。Paul は、Ellen が自分の思い通りにならないと次のように皮肉を言う。

The meanest insect that skims the heavens, when it get its load, flies, straight and honestly to its nest or hive, according to its kind; but the ways of a woman's mind, are as knotty as a gnarled oak, and more crooked than the windings of the Mississippi! (151)

Paul は、女の気持ちは複雑で分からんと嘆いている。彼は、Ellen を深く理解しようとする姿勢が無いのである。悪に蝕まれているという自覚も無く魂の救済に関心を持たない Paul は、Ellen との暖かい人間関係をもてないのである。

Ishmael と Esther や Paul と Ellen に比べると、Middleton と Inez はメシヤ Uncas と Hard-Heart の死と復活を信じる信仰を通して親密で暖かい人間関係を作り上げている。この関係を構築できたのは、Middleton が悪に蝕まれていることを自覚し Inez の魂の苦悩に共感し、彼女を慰め、労り、励まし、互いに支え合いながら墮落した世界の中で耐え抜いていこうとする姿勢を堅持しているからである。Middleton は、人間だけでなく自然とも暖かい関係を築こうとしている。Middleton が救いを得たのは、メシヤ Uncas と Hard-Heart に対する信仰を通して神との関係を修復し自然と人間との暖かい交わりを持つようと努力していたからである。

注

- (1) Henry Nash Smith *Virgin Land: The American West as Symbol and Myth* (New York: Vintage Books, 1950) 71
- (2) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985)
本論文中的の作品からの引用は、全てこの版による。なお、() ないの数字は、そのページを示す。
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
- (4) 拙論「時間の中心 Uncas—クーバーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第19号(1988) 87-103、拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87
- (5) 拙論「Duncan Heyward の挫折」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 99-108
- (6) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127、
拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (7) 拙論「Inez と Hard-Heart: Inez の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号(2001) 93-107
- (8) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号(2000) 105-116
- (9) 拙論「Inez と Hard-Heart: Inez の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号(2001) 93-107
- (10) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127
- (11) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (12) *The Last of the Mohicans* における Chingachgook, Uncas, Natty Bumppo と彼等の関係に関しては、拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87、拙論「Chingachgook と Magua—クーバーの神義論」大阪女学院短期大学紀要第27号(1997) 53-62、拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 109-120で論じている。
- (13) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号(1999) 69-83
- (14) 拙論「Inez と Hard-Heart: Inez の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号(2001) 93-107
- (15) John P. McWilliams, Jr. *Political Justice in A Republic: James Fenimore Cooper's America* (Berkeley: University of California Press, 1972) 259, Orm Overland *The making and meaning of an American classic James Fenimore Cooper's The Prairie* (New York: Humanities Press, 1973) 157, Robert Emmet Long *James Fenimore Cooper* (New York: A Frederick Ungar Book, 1990) 73, Joel Porte *The Romance in America: Studies in Cooper, Poe, Hawthorne, Melville, and James* (Middletown: Wesleyan University Press, 1969) 50, Geoffrey Rans *Cooper's Leather-Stocking Novels: A Secular Reading* (Chapel Hill: The University of North Carolina Press, 1991) 149
- (16) 日本聖書協会 聖書 新共同訳(1999) 3
- (17) Bruce M. Metzger and Roland E. Murphy ed. *The New Oxford Annotated Bible* (New York: Oxford University Press, 1991) 4-5
- (18) R. W. B. Lewis *The American Adam: Innocence Tragedy and Tradition in the Nineteenth Century* (Chicago: The University of Chicago Press, 1971) 99
- (19) 拙論「時間の中心 Uncas—クーバーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第19号(1988) 87-103
- (20) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号(1998) 115-127
- (21) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号(2000) 105-116
- (22) 拙論「偽女性解放者としての Paul Hover」大阪女学院短期大学紀要第30号(2000) 117-128